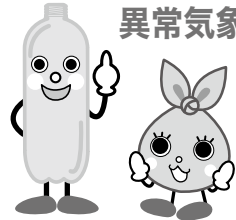
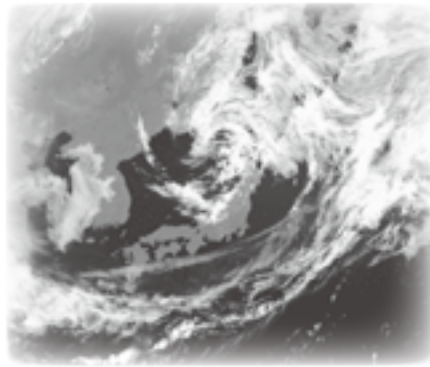


飛騨市の
エコだより
第64回
「地球温暖化と
異常気象」



気象庁によると、台風と前線の停滞により8月の降水量は西日本太平洋側で平年の3倍と、統計開始以降の68年間でもっとも多い記録となったほか、日本各地で長期間にわたって大雨の降りやすい状態が続き、北海道から九州にかけて記録的な大雨になったところがありました。

飛騨地域においても8月16日から17日にかけての豪雨により、大きな被害を受けたことは皆さんご存じのとおりです。

これら異常気象の原因としては、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響が懸念されています。

「気候変動に関する政府間パネル【IPCC】国連機関」によると、世界の平均気温は100年余りの間に0.85度上がり、北半球における1983年から2012年までの30年間の気温は、過去1400年において最も高温であった可能性が高いと報告されています。気温が上がることにより、大気のパランスがくずれ、高気圧が強くなったり、海水温が高くなることにより、水蒸気が増えて、大雨が増えたり台風が巨大化したりします。

近い将来、世界の平均気温は4.8度上がるとも言われており、もしそうなった場合、熱波や干ばつに加え、豪雨や台風も今の数倍の規模になる可能性もあります。

私たちの生活から出る二酸化炭素が地球温暖化の原因であれば、それを改める必要があります。まずは現状を知ること。そして「家庭の電気、ガス、燃料を節約する」「自動車の利用を控える」などから始めてみてはどうでしょうか。私たちに出来ることは小さな事かもしれませんが同じような人が増えれば排出量は減っていきます。

問 環境課 ☎ 0577-73-7482

みんなで活かして
楽しい毎日!

飛騨の薬草を学ぶ
教養講座

ノブドウ

今年思ったより涼しい夏でしたが、それでもやはり夏は夏。湿度の高い暑さは、体にかかる負担がかかりました。

また、この時期は朝夕と日中の温度差がとても大きくなる日もあり、体の疲れは季節の変わり目の今頃に出でくるのではないのでしょうか。

そんな時には、山の宝石「ノブドウ」がおすすめです。

この時期、宝石のような青や紫、水色など色とりどりの実がなるこのノブドウは、ウマブドウ、ウマノメダマなど地域によってさまざまな呼び名があり、また、そのまま食べることもできます。河合町では毒草とも言われていたようです。

しかしこのノブドウ、ミネラルが豊富といわれるブドウ系植物の中でも特に多くのミネラルを含むそう、村上光太郎先生（崇城大学薬学部教授）は、「アレルギーなどで体質



の長期的改善をしていくなら、ノブドウの葉やツルを煎じて飲むとよい」と話しています。

その際には葉やツルを炒ってから煎じてお茶にすると風味がよくなりますよ。

また、実をホワイトリカーに漬け込み1年以上たったものを飲むと肝臓病によいそうです。

特にこの時期はカラフルな実をつけるので、とてもよくわかります。

ある地域では、ホワイトリカーに漬けたものを、やけどなど皮膚のトラブルの際に塗っているそうです。

日あたりのよいところに生えており、この時期カラフルでも見つけやすいこのノブドウを、うまく生活に取り入れて、日ごとに秋が深まるこれからの時期を乗り切りましょう。

問 企画課 ☎ 0577-73-6558